

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	研究科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホジシヨウ ブンキョウガクエン 学校法人 文京学園									
フリガナ大学の名称	ブンキョウガクインダクガクガクイン 文京学院大学大学院(Bunkyo Gakuin University Graduate School)									
大学本部の位置	東京都文京区向丘1丁目19番1号									
大学の目的	本大学院は「自立と共生」という本学の建学の精神に則り、教育基本法ならびに学校教育法に基づき、学術の理論および応用を教授研究し、その深奥をきわめて社会の発展に寄与することを目的とする。									
新設学部等の目的	看護師、保健師、助産師等の有資格者に対して、さらに高度な専門的技術を教授するとともに、高度な看護学の知識を教授し、看護実践を科学的にとらえて学術的、理論的に研究していこうとするものである。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】保健医療技術学部看護学科 14条の特例の実施	
	看護学研究科 [Graduate School of Nursing Science] 看護学専攻 [Master Course of Nursing Science] 計	年	人	年次人	人	修士(看護学) [Master of Nursing Science]	令和3年4月 第1年次	東京都文京区向丘1丁目19番1号		
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	なし									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	看護学研究科 看護学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設分	看護学研究科 看護学専攻(修士課程)		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
		計		人	人	人	人	人	人	人
	既設分	経営学研究科 経営学専攻(修士課程)		8 (8)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	2 (2)
		計		8 (8)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	2 (2)
		人間学研究科 人間学専攻(修士課程)		10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	13 (13)
		人間学研究科 心理学専攻(修士課程)		14 (14)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	2 (2)
		人間学研究科 心理学専攻(修士課程)		7 (7)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	6 (6)
	計	外国語学研究科 英語コミュニケーション専攻(修士課程)		8 (8)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	4 (4)
		保健医療科学研究科 保健医療科学専攻(修士課程)		13 (13)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	19 (19)	0 (0)	6 (6)
計		52 (52)	25 (25)	0 (0)	3 (3)	80 (80)	0 (0)	31 (31)		
合計			60 (60)	30 (30)	1 (1)	4 (4)	95 (95)	0 (0)	33 (33)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		114 (114)	80 (80)	194 (194)					
	技 術 職 員		26 (26)	18 (18)	44 (44)					
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)	4 (4)	6 (6)					
	そ の 他 の 職 員		3 (3)	0 (0)	3 (3)					
	計		145 (145)	102 (102)	247 (247)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
	校 舎 敷 地	59,143.82 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	59,143.82 m ²					
	運 動 場 用 地	35,169.84 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	35,169.84 m ²					
	小 計	94,313.66 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	94,313.66 m ²					
	そ の 他	11,383.32 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	11,383.32 m ²					
	合 計	105,696.98 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	105,696.98 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
		63,480.02 m ² (63,480.02 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	63,480.02 m ² (63,480.02 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	74室	32室	56室	16室 (補助職員0人)	2室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		大学全体				
		看護学研究科看護学専攻		13 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不能なため大学全体の数		
	看護学研究科	342,446 [48,299] (342,064 [48,283])	516 [142] (516 [142])	34,211 [32,711] (34,211 [32,711])	8,923 (8,923)	10,264 (10,264)	3,096 (3,096)			
	計	342,446 [48,299] (342,064 [48,283])	516 [142] (516 [142])	34,211 [32,711] (34,211 [32,711])	8,923 (8,923)	10,264 (10,264)	3,096 (3,096)			
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体				
		4,054.92m ²	574	479,000						
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体				
		3,139.25m ²	テニスコート3面		フットサルコート1面					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	申請研究科全体
		教員1人当り研究費等		500千円	500千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
		共同研究費等		1,800千円	1,800千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
		図書購入費	4,000千円	260千円	260千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
	設備購入費	14,000千円	3,300千円	3,300千円	-千円	-千円	-千円	-千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,118千円	823千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入 等							

大学等の名称	文京学院大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入 学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地
		年	人	年次 人	人		倍		
既設 大学 等 の 状 況	経営学部						1.10		
	経営コミュニケーション学科	4	260	-	1040	学士(経営学)	1.10	平成3年度	東京都文京区向丘1 丁目19番1号
	人間学部						0.93		
	コミュニケーション社会学科	4	60	-	240	学士(人間学)	1.16	平成15年度	埼玉県ふじみ野市 亀久保1196番地
	児童発達学科	4	130	-	520	学士(教育学)	0.96	平成15年度	
	人間福祉学科	4	110	-	440	学士 (社会福祉学)	0.68	平成15年度	コミュニケーション社会学科 と人間福祉学科福 祉マネジメントコースのみ
	心理学科	4	100	-	400	学士(心理学)	1.01	平成15年度	(1～2年次) 埼玉県ふじみ野市 亀久保1196番地 (3～4年次) 東京都文京区向丘1 丁目19番1号
	外国語学部						1.08		
	英語コミュニケーション学科	4	260	-	1040	学士 (コミュニケーション)	1.08	平成13年度	東京都文京区向丘1 丁目19番1号
	保健医療技術学部						1.01		
	理学療法学科	4	80	-	320	学士 (理学療法学)	1.04	平成18年度	埼玉県ふじみ野市 亀久保1196番地
	作業療法学科	4	40	-	160	学士 (作業療法学)	0.95	平成18年度	埼玉県ふじみ野市 亀久保1196番地
	臨床検査学科	4	80	-	320	学士 (臨床検査学)	1.01	平成18年度	(1年次) 埼玉県ふじみ野市 亀久保1196番地 (2～4年次) 東京都文京区向丘1 丁目19番1号
	看護学科	4	100	-	400	学士 (看護学)	1.01	平成26年度	(1年次) 埼玉県ふじみ野市 亀久保1196番地 (2～4年次) 東京都文京区向丘1 丁目19番1号
	大学院								
経営学研究科									
経営学専攻	2	30	-	60	修士(経営学)	0.66	平成9年度	東京都文京区向丘1 丁目19番1号	
人間学研究科						0.38			
人間学専攻	2	10	-	20	修士(人間学)	0.20	平成11年度	埼玉県ふじみ野市 亀久保1196番地	
心理学専攻	2	20	-	40	修士(心理学)	0.47	平成13年度		
外国語学研究科									
英語コミュニケーション専攻	2	10	-	20	修士 (英語コミュニケーション)	0.15	平成17年度	東京都文京区向丘1 丁目19番1号	
保健医療科学研究科									
保健医療科学専攻	2	20	-	40	修士 (保健医療科学)	0.90	平成22年度	東京都文京区向丘1 丁目19番1号	
附属施設の概要	該当なし								

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要																
(看護学研究科 看護学専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	看護研究方法論Ⅰ	1前	2			○			1						オムニバス	
	看護研究方法論Ⅱ	1後	2			○			1							
	看護実践教育論	1後	2			○			3	1						
	看護倫理	1前	2			○			1							
	ヘルスプロモーションと健康教育	1前		2		○			1							
	家族看護論	1後		2		○			1							
	看護システム論	1前		2		○			1							
	看護理論	1前	2			○			1							
	フィジカルアセスメント	1後		2		○			1	1						オムニバス
	病態生理学	1後		2		○										兼1
	看護管理	2前		1		○			1							
	コンサルテーション論	2前		2		○			1	1						オムニバス
小計（12科目）		—	10	13	0	—			6	2	0	0	0	兼1		
専門教育科目	生活支援看護学総論	1前	1			○			1						オムニバス・共同(一部) 兼1 オムニバス オムニバス オムニバス	
	療養生活支援看護学特論	1前		2		○			2	1						
	療養生活支援看護学演習Ⅰ	1後		1			○		2	3	1					
	療養生活支援看護学演習Ⅱ	2前		1			○		3	3	1					
	療養生活支援看護学実習	1後		2				○	3	4	1	1				
	健康生活支援看護学特論	1前		2		○			2							
	健康生活支援看護学演習Ⅰ	1後		1			○		2	1						
	健康生活支援看護学演習Ⅱ	2前		1			○		2	1						
	健康生活支援看護学実習	1後		2				○	2	1						
小計（9科目）		—	1	12	0	—			5	5	1	1	0	兼1		
特別研究科目	特別研究	2	8					○	8	5	1					
	小計（1科目）		—	8	0	0	—			8	5	1	0	0		
合計（22科目）		—	19	25	0	—			8	5	1	1	0	兼2		
学位又は称号		修士（看護学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
修了要件は、本研究科に2年以上在学し、30単位以上を履修し、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格すること。 履修方法は、共通科目において必修科目10単位、選択必修科目2単位、選択科目3単位以上、専門教育科目において必修科目1単位、療養生活領域あるいは健康生活領域いずれか主たる領域の選択必修科目6単位、特別研究8単位を含めて30単位以上修得する。								1学年の学期区分				2期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護研究方法論Ⅰ	看護にかかわる現象や問題、そこに潜む法則性を明らかにするための研究プロセスについて学修する。看護研究を実施していく上で必要な基本的な研究方法論について概要について学ぶと共に質的研究のクリティークを通して、代表的な質的研究の展開方法を学修する。本科目では、看護学領域で比較的多く用いられるグラウンテッド・セオリー・アプローチと現象学的アプローチ、エスノグラフィーに関して、論文のクリティークを通して、それぞれの研究法の理論的立場や分析の方法等について理解を深める。また、どのような研究課題に質的研究法を用いることが適切であるのか検討し、理解できるようになり、学生個々の研究課題において、質的研究法を用いることが適切かどうかを判断できる力を培う。	
共通科目	看護研究方法論Ⅱ	量的研究法を用いて行う実験研究や仮説検証型研究、因子探索型研究、関係探索型研究を進める上で、必要とされる対象の選定方法、サンプルサイズの求め方、変数の設定、測定方法の選択、分析の方法に関する基本的知識を学修する。量的研究法を用いた論文をクリティークするポイントを理解し、量的研究法を用いる研究課題の適切性を判断できる力を修得し、学生個々の研究課題において、相応しい量的研究法を選択でき、適切な統計的分析法を理解できる。	
共通科目	看護実践教育論	看護の対象が自ら意思決定し、行動を変容していくことを支える上で必要な教育的なかかわりを理論に基づいた実践となるよう基礎的な知識を修得する。個人ならびに集団を対象とした教育的なかかわりにおける効果的な方法論を学修する。 (オムニバス方式/全15回) (⑥ 藤本薫/5回) 教育的な関わりの意義とコーチング技法を中心に具体的に教授する。 (⑨ 池口佳子/5回) 成人期を対象に動機付けや具体的な学習目標の設定について教授する。 (① 横田素美/3回) 個人・集団等の対象形態による教育的な関わりを具体的に教授する。 (⑧ 米澤純子/2回) 集団を対象に効果的な教育的な関わりとその評価について教授する。	オムニバス方式
共通科目	看護倫理	看護実践や看護研究などで生じる倫理的ジレンマについて、倫理理論の理解や価値分析を通して、自己の考え方を見直す。さらに倫理的感受性を高め、対象者の意思決定を支えるために必要な倫理的意思決定の過程や医療者間の倫理的調整に求められる能力を培う。ケアの倫理を中心とした倫理モデルについて批判的に論じる。	
共通科目	ヘルスプロモーションと健康教育	ヘルスプロモーションの概念と国際的動向を踏まえ、ヘルスプロモーションをテーマとした我が国の健康を取り巻く現状と課題、今後の方向性について理論的に学習し、個人および集団、組織、地域の健康増進を支援するための方法論および技術の開発、政策づくりなどのヘルスプロモーションの活動体制における看護の機能を探求する。	
共通科目	家族看護論	家族の定義や機能・発達、看護における援助方法とりわけ家族を1つの単位として援助する重要性と家族看護における看護の役割を理解し、対象である患者・家族が抱える健康問題を解決するために必要な論理的な思考力と適切な看護を実践できる能力を身につける。また、家族の健康や家族生活に関わる現象を説明している看護学領域の理論を取りあげ、それぞれの理論の特徴や限界を分析し、家族ケアに関する研究方法の特徴や限界を考察する。そのうえで、家族の健康生活を構築するために有用な理論開発の可能性を検討するとともに、家族の健康レベルを高めていく看護方法を開発する能力を修得する。	
共通科目	看護システム論	社会の変化に伴い保健医療福祉分野における課題も大きく変化している現状を理解し、背景のある経済成長低迷に伴う財源の逼迫、人口構成の変化、災害による被災者の増加などが保健医療福祉、とりわけ看護にどのように影響するのかを推測し、人々の健康に寄与できる看護の提供に関してシステム構築の視点から検討できる力を培う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護理論	看護学固有の科学性とは何か、看護現象の科学的な捉え方、看護説学と看護理論の結びつき、看護理論による看護現象の説明、看護研究における科学的手法等を学修する。さらに既存の看護理論の概要を理解し、実践、教育、研究への適用に関してディスカッションする。	
共通科目	フィジカルアセスメント	複雑な健康問題を抱える対象者に対して、高度な看護実践を行うために必要なフィジカルアセスメントの方法と知識を修得し、様々な発達段階の対象者の健康上の問題をアセスメントし、看護問題を見出せる臨床判断能力を培う。 (オムニバス方式/全15回) (① 横田素美/14回) フィジカルアセスメントの基本的な手技、知識を確実なものにしながらか難事例のフィジカルアセスメント力を培う。 (⑫ 染谷奈々子/1回) 小児のフィジカルアセスメント力を養う。	オムニバス方式
共通科目	病態生理学	生体が安定した状態を維持するためのメカニズムを理解した上で、高度な看護実践を行うために複雑な健康問題を抱える対象者の病態を正確に捉えられるように、主要な症状や病態に焦点をあてながら病態生理の知識を確かなものとする。	
共通科目	看護管理	看護管理の実践に必要な諸理論、知識と能力について理解し、看護実践・教育・研究の場における諸現象を看護管理の視点から批判的に分析できる能力を獲得する。さらに保健医療システムの現状と問題点を理解した上で、看護管理上の問題を分析し、関係する組織・チームの調整・協働をはかり、問題を解決していくための基礎的能力を修得する。	
共通科目	コンサルテーション論	看護現場におけるコンサルテーションの目的、プロセス、モデル、タイプ、機能、役割について理解を深める。さらにプロセス・コンサルテーションの知識を基にコンサルテーションを行うために必要な知識と態度、技能に関する理解を深め、相談活動を展開するために求められる基礎能力を培う。 (オムニバス方式/全15回) (⑤ 中山洋子/14回) コンサルテーションの概念並びに具体的な実施方法について教授し、相談活動を展開するための基礎能力を培う。 (⑫ 染谷奈々子/1回) 専門看護師の活動をとらえて、具体的なコンサルテーションについて解説する。	オムニバス方式
専門教育科目	生活支援看護学総論	あらゆる健康レベルの人々を対象にその人の生活を健康面から支援するという看護の基本に立ち戻り、看護の主要概念である“健康”や“生活”に関して、個々の考えを見直しながらか、文献検討を行い、現代社会における新たな考え方を検討する。	
専門教育科目	療養生活支援看護学特論	健康上の課題を抱えながらか医療機関を含めた施設あるいは在宅で療養生活を送る対象と家族を深く理解し支援するため、その現状と直面する課題について多面的に学ぶ。様々な課題を対象と共に解決するための支援に繋がる概念、関連要因、療養への影響について、文献検討を行い、ディスカッションを通して、考察を深める。 (オムニバス方式/全15回) (⑨ 池口佳子/4回) 在宅療養を中心に保健医療看護福祉制度の動向や地域の共同体としての機能についてディスカッションしながら検討する。 (⑦ 増田元香/5回) 高齢者の療養生活に焦点を当て、健康格差等についてディスカッションしながら検討する。 (① 横田素美/5回) 慢性疾患を抱えた対象の療養生活に焦点を当てながらか、健康格差やセルフマネジメント獲得についてディスカッションしながら検討する。 (⑨ 池口佳子・⑦ 増田元香・① 横田素美/1回) 療養生活支援看護の発展について検討する。	オムニバス方式・共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 療養生活支援看護学	療養生活支援看護学演習Ⅰ	<p>慢性疾患を抱える小児、成人、高齢者の具体的な困難事例等をもとに、療養生活支援に関する理論と課題を理解し、実践への応用するための知識と思考枠組みを修得する。各自が持ち寄った困難事例を用いて、グループディスカッション形式で展開する。ディスカッション等で得られた知見を基に個々の学生が自らの研究疑問を洗練させ、実施可能な研究計画の立案に繋げられるように国内外の文献を検討し、その内容をプレゼンテーション、意見交換することにより研究論文に関するクリティーク力を培う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(⑨ 池口佳子／3回) がん末期患者の事例を中心に国内外の文献検討を行いディスカッションする。</p> <p>(18 伊藤由里子／1回) 再発を繰り返すがん患者の事例を用いて「疾病受容」についてディスカッションする。</p> <p>(⑭ 渋谷寛美／1回) 心不全患者に焦点をあてて、行動変容に関して理論をもとにディスカッションして検討する。</p> <p>(⑫ 染谷奈々子／1回) 小児の事例を用いて、小児における「意思決定支援」の在り方、特徴についてディスカッションする。</p> <p>(⑬ 土谷朋子／1回) 精神障害を抱える小児の事例を用いて「地域における精神障害者支援」についてディスカッションする。</p> <p>(⑦ 増田元香／4回) 生活の再構築や多職種連携を中心に国内外の文献検討し、ディスカッションする。</p> <p>(① 横田素美／4回) 病みの軌跡やレジリエンスを中心に国内外の論文を検討し、ディスカッションする。</p>	オムニバス方式
専門教育科目 療養生活支援看護学	療養生活支援看護学演習Ⅱ	<p>慢性疾患を抱えた小児、成人、高齢者とその家族に対する療養生活支援に関する代表的な介入方法やアプローチ方法について理解し、教育的支援の具体的方策を修得する。療養支援法に関する研究論文を題材にしてディスカッションを行い、健康レベル、対象者の年齢や社会背景など多様化する背景に応じた支援方法を探求する。代表疾患の療養支援の実際を想定し、インタビュー、ロールプレイングなどを導入し、具体的な実践能力の向上と臨床判断の的確性を修練する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(② 五十嵐愛子／1回) アルコール依存症患者への集団、個人に対する回復プログラムの実際と課題について、ディスカッションする。</p> <p>(⑨ 池口佳子／4回) がん患者に焦点をあて、意思決定支援や終末期ケアについて検討する。</p> <p>(⑭ 渋谷寛美／1回) 再発リスクを抱えながら生活の再構築を目指す心不全患者の教育的支援について検討する。</p> <p>(⑫ 染谷奈々子／1回) 小児の治療場面における意思決定支援について検討する。</p> <p>(⑬ 土谷朋子／1回) 精神疾患を抱え長期療養する小児患者とその家族への教育的支援について検討する。</p> <p>(⑦ 増田元香／5回) 認知機能が低下した高齢者やその家族に対するインタビュー並びに高齢者の退院支援、終末期について検討する。</p> <p>(① 横田素美／2回) 透析患者の生活の再構築や糖尿病合併症を抱えた患者の教育的支援について検討する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	療養生活支援看護学 療養生活支援看護学実習	医療機関を含む施設ならびに地域で健康問題を抱えながら生活している対象（小児、成人、高齢者）に対して、「自分らしい療養生活の在り方」を実現するための教育的支援を展開する実習を行う。対象の療養生活を長期的視座から支援する実践能力を強化するため、対象（患者）の療養生活の軌跡をたどりつつ、将来のその人らしい生活の実現に向けた意思決定、療養支援のための系統的情報収集、実践計画立案、教育的支援、評価を行う。	
専門教育科目	健康生活支援看護学 健康生活支援看護学特論	地域で生活している人々の生活を包括的に捉え、個人・家族・集団等における健康課題および健康の保持・増進、疾病・介護予防に向けた看護活動について学ぶ。具体的には、『健康行動理論による研究と実践』について輪読したり、課題について文献検討し、ディスカッションを通じて考察を深める。 (オムニバス方式／全15回) (⑥ 藤本薫／8回) ライフステージにおける健康課題について教授する。また『健康行動理論による研究と実践』について輪読し、健康教育の理論とモデルの実践への応用について教授する。 (⑧ 米澤純子／7回) 地域で生活している個人・家族と集団、地域の健康課題について教授する。また『健康行動理論による研究と実践』について輪読し、健康教育の理論とモデルの実践への応用について教授する。	オムニバス方式
専門教育科目	健康生活支援看護学 健康生活支援看護学演習Ⅰ	心身の健康保持増進を目指して個人のセルフケア力を高めるとともに、個人・家族・集団等を対象に、健康に関する意識および生活習慣の改善を支援する看護実践の理論と課題について、学生自身の問題意識に基づき、国内外の文献検討を行う。文献のクリティークとディスカッションを通して研究疑問を洗練する。また、研究疑問に適した研究デザインを選定し、研究計画を立案するための能力を発展させる。 (オムニバス方式／全15回) (⑪ 小檜山敦子／1回) 健康に関わる意思決定の理論と応用について教授する。 (⑥ 藤本薫／8回) ウェルネスな生活を目指し、生活習慣の改善や健康行動の継続に必要な自己効力感など、理論・モデルの実践への応用について教授する。また女性における健康課題と支援に関して、文献検討をとおして研究課題を明確にし、研究計画立案するための基礎的能力を養う。 (⑧ 米澤純子／6回) 人々の健康増進のための生活習慣の改善や健康行動の継続に必要な、ヘルスプロモーション、ヘルスリテラシー、エンパワメントなどの理論・モデルの実践への応用について教授する。また地域の健康課題と支援に関して、文献検討をとおして研究課題を明確にし、研究計画立案するための基礎的能力を養う。	オムニバス方式
専門教育科目	健康生活支援看護学 健康生活支援看護学演習Ⅱ	健康生活支援に関する教育的支援や地域におけるケアシステム構築に向けて具体的な方策について、研究課題に関連する研究論文を題材にディスカッションする。また、的確な介入方法が展開できるために、模擬講義や介入のためのスキルトレーニング、ロールプレイングなどを行い、介入方法の洗練と実践能力の向上をはかる。さらにデータ収集および分析するための技術を強化する。 (オムニバス方式／全15回) (⑪ 小檜山敦子／4回) 健康生活支援看護学実習で実践する健康教育について、模擬講義の作成全般にかかわるが、特にシナリオ作成や教育評価について指導する。 (⑥ 藤本薫／5回) 健康教育の実践に必要なスキルを教授する。また健康生活支援看護学実習で実践する健康教育について、模擬講義の作成全般にかかわる。 (⑧ 米澤純子／6回) 健康教育の実践に必要なスキルを教授する。また健康生活支援看護学実習で実践する健康教育について、模擬講義の作成全般にかかわるが、特に目的および目標の立案について指導する	オムニバス方式
専門教育科目	健康生活支援看護学 健康生活支援看護学実習	健康生活に関する教育的支援や地域におけるケアシステム構築に向けた方策について、具体的な実践を展開するための実習計画を立案し、実習施設と調整の上、実習計画に基づいて実習する。実践の展開にあたっては、本郷キャンパス内に開設している「まちラボ」に集う住民を対象とした健康保持・増進を図る教育的支援、併設の女子中学校・女子高等学校における青年期の女性を対象とした健康教育、併設の幼稚園に通う児の保護者などを対象とした教育的支援を展開する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究科目	特別研究	<p>『共通科目』『専門科目』を通じて修得した幅広い視点と専門的視点から研究課題を特定し、その課題の解決策を明らかにするために、指導教員の指導を受けつつ、学位論文をまとめる。その過程では、研究課題の明確化、研究計画書の作成、研究科倫理委員会提出、フィールドワーク、データ分析・考察を行う。また、中間報告会、修士論文発表会において、本学の大学院看護学研究科全教員からの助言・指導を受け、研究内容を洗練させる。</p> <p>(① 横田素美) 日常生活においてコントロールを要する慢性疾患を抱えた方ならびにその家族、関わる看護専門職者を対象とし、慢性疾患患者ならびにその家族が自己実現できる生活を送れるよう支援する看護に関して探究する。</p> <p>(② 五十嵐愛子) ストレスとその対処法について、アルコール・薬物・ギャンブル・性などの依存症を抱える人に対する看護及び地域での生活支援について探究する。</p> <p>(③ 志自岐康子) ヘルスケアの現場で看護職者が直面する倫理的問題に関する研究、看護職者の倫理的意思決定能力の向上に関する研究、人間の生命や尊厳に基づく良質な看護サービスの提供に関する研究を行う。研究方法としては、学生の関心に合わせ、量的研究方法及び質的研究方法を用いて、課題を解決できるよう指導する。</p> <p>(④ 高橋真理) 看護学における女性の生涯や周産期母子・家族へのウェルネス特にメンタルヘルスの向上を中心に、自ら選んだ専門の研究課題について、研究計画に基づき、実験研究あるいは調査研究を行い、修士論文を完成するまでの研究プロセスを指導する。</p> <p>(⑤ 中山洋子) 精神障害者のセルフケアに関する研究、看護師の看護実践能力および看護におけるクリニカル・ジャッジメントに関する研究、災害看護研究、とくに被災者体験や災害時の心のケアに関する研究の指導を行う。研究方法としては、学生の関心に沿いながら、質的研究方法を用いた研究や方法論的研究を中心に指導する。</p> <p>(⑥ 藤本薫) 女性および成人のライフステージにおける健康課題、特に育児支援や健康行動の動機付け・実践を支援する看護実践、健康教育について、研究課題の明確化、研究計画立案、データ収集・分析、論文執筆、成果の講評に至る一連の研究指導を行う。</p> <p>(⑦ 増田元香) 療養世帯を送る高齢者とその家族のQOL向上のための看護、意思決定支援、睡眠ケアに関するテーマについて、研究課題の明確化、研究計画の立案、データ収集、分析、考察、論文執筆、成果の公表に至る一連のプロセスを指導する。</p> <p>(⑧ 米澤純子) 地域で生活している人々の健康増進・QOLの向上に関わる実践活動、地域ケアシステム構築、人材育成に関するテーマを中心に、研究課題の明確化、研究計画立案、量的・質的研究方法によるデータ収集、分析、論文執筆、成果の公表に至る一連の研究指導を行う。</p> <p>(⑨ 池口佳子) がん患者および終末期にある患者、家族への看護に関するテーマについて、研究課題の明確化、研究計画の立案、データ収集、分析、考察、論文執筆、成果の公表に至る一連のプロセスを指導する。</p> <p>(⑩ 金久保愛子) がん患者の保険行動を支援する看護を中心に学生の関心のある研究課題に沿いながら主に量的な研究を用いながら、一連の研究プロセスを指導する。</p> <p>(⑪ 小檜山敦子) 妊産婦ならびに褥婦の自己管理や思春期における健康教育を中心に学生の関心に沿いながら研究課題を明確化し、修士論文完成までの研究プロセスを指導する。</p> <p>(⑫ 染谷奈々子) 子供と家族の健康増進への支援や子どもと家族に対する高度な看護実践の探究を中心に学生の関心あるテーマに沿って研究課題の明確化、研究計画の立案、データ収集、分析、考察、論文執筆、成果の公表に至る一連のプロセスを指導する。</p> <p>(⑬ 土谷朋子) メンタルヘルスや子どもの精神発達を中心に学生の関心あるテーマに沿って研究課題の明確化、研究計画の立案、データ収集、分析、考察、論文執筆、成果の公表に至る一連のプロセスを指導する。</p> <p>(⑭ 渋谷寛美) 循環器疾患を抱える患者のアドヒアランスや退院後の生活支援を中心に学生の関心あるテーマに沿って研究課題の明確化、研究計画の立案、データ収集、分析、考察、論文執筆、成果の公表に至る一連のプロセスを指導する。</p>	

学校法人文京学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度				令和3年度				変更の 事由		
		入学 定員	編入学 定員	収容 定員		入学 定員	編入学 定員	収容 定員		
文京学院大学				文京学院大学						
経営学部	経営コミュニケーション学科	260	-	1040	経営学部	経営コミュニケーション学科	260	-	1040	
人間学部	コミュニケーション社会学科	60	-	240	人間学部	コミュニケーション社会学科	60	-	240	
	児童発達学科	130	-	520	人間学部	児童発達学科	130	-	520	
	人間福祉学科	110	-	440	人間学部	人間福祉学科	110	-	440	
	心理学科	100	-	400	人間学部	心理学科	100	-	400	
外国語学部	英語コミュニケーション学科	260	-	1040	外国語学部	英語コミュニケーション学科	260	-	1040	
保健医療技術学部	理学療法学科	80	-	320	保健医療技術学部	理学療法学科	80	-	320	
	作業療法学科	40	-	160	保健医療技術学部	作業療法学科	40	-	160	
	臨床検査学科	80	-	320	保健医療技術学部	臨床検査学科	80	-	320	
	看護学科	100	-	400	保健医療技術学部	看護学科	100	-	400	
計		1220		4880	計		1220		4880	
文京学院大学大学院				文京学院大学大学院						
経営学研究科	経営学専攻(M)	30	-	60	経営学研究科	経営学専攻(M)	30	-	60	
人間学研究科	人間学専攻(M)	10	-	20	人間学研究科	人間学専攻(M)	10	-	20	
	心理学専攻(M)	20	-	40	人間学研究科	心理学専攻(M)	20	-	40	
外国語学研究科	英語コミュニケーション専攻(M)	10	-	20	外国語学研究科	英語コミュニケーション専攻(M)	10	-	20	
保健医療科学研究科	保健医療科学専攻(M)	20	-	40	保健医療科学研究科	保健医療科学専攻(M)	20	-	40	
計		90		180	看護学研究科	看護学専攻(M)	10	-	20	研究科の設置 (認可申請)
計					計		100		200	